

備前化成(岡山県赤
磐市、清水富江社長、
086・995・33



11)は、サプリメントという言葉がまだなかった1970年代に天然ビタミンE配合の栄養補助食品を製品化し、市場を開拓した草分け的存在だ。現在は健康食品に加え、医薬品も事業の柱に成長した。21年に創業50年を迎え、次に目指すのは100年企業。創業の原点に戻り研究開発型企業として、さらなる成長に向けまい進する。

備前化成

健康食品と医薬品を柱に成長

ハウが蓄積されている(清水社長)。最初の製品である天然ビタミンEは大豆の胚芽を基原材料とし、その後、カキやニンニク、カツオなど基原材料を増やし、製品数も拡大した。

同社の20年6月期の売上高は約82億円。健康食品事業と医薬品事業の売り上げがほぼ半々という。コア技術は有効成分の抽出と濃縮で「ここに当社のノウ

100年企業に向けて、清水社長は「創業時の原点に戻り、研究開発力を強化する」と語る。外部から人材を

創業の原点 研究開発強化



独自性のある新技術や新製品の開発に力を注ぐ

招くなど研究開発体制の充実に注力する。健康食品の研究開発部門には15人が所属しており、製剤開発に従事する。論文を発表する。

近年、新たに開発した技術の一つに「ビタレック錠」がある。体内の適切な場所で消化し、必要な成分の吸収を促す技術だ。例えばビタミンCは人が一度

健康に貢献 100年企業目指す

投資会社の目線

【大阪中小企業投資育成 業務第3部・岡村昂調査役】備前化成の原点は創業者・石原隆文氏がシベリア抑留で痛感した「健康の大切さ」にある。創立から半世紀、自然素材の力を抽出・精製する技術を極めた健康食品のパイオニアは医薬分野に事業領域を広げ、人々の健康に貢献している。

に吸収できる量には限界があり、吸収されなが長く滞留する顆粒と一緒には排出される。20年に開発した。そこで「ビタミンCを徐々に溶出する」(庄野英樹副社長)こと、口臭抑制、抗菌などので、吸収量の増加につなげるものだ。19年からOEMを開発し、今後は製品数を増やしていく。また大いなる。岡山支局長・大楠(木曜日掲載)